



首都高速湾岸線B131工区

架設工事

Erection of WANGAN Line Sec. B131 Bridge

川田工業(株)・東京工事部

1. まえがき

B131工区は、首都高速湾岸線の横浜市本牧埠頭より大黒埠頭を結ぶ横浜港横断橋(ベイブリッジ)の大黒埠頭側隣接工区であり、橋長300mの3径間連続鋼床版トラス橋である。本橋の構造はベイブリッジと同様な上下二層のダブルデッキ形式で、横断面には対傾構がなく、上路箱桁、鉛直材および下路横桁からなる床ラーメンを形成している。上路箱桁は鋼床版デッキ面のシーム方向継手(橋軸方向)が現場溶接となっており、7分割(8シーム)構造である。

2. 主要諸元

形	式：3径間連続鋼床版トラス橋
橋	長：300.129m
支	間：98.229m+100.000m+99.250m
主構トラス	主構間隔 31.0m 主構高さ 9.0m
幅	員：上路 上り線 13.250m~19.144m 下り線 13.250m~15.239m 下路(本工事含まず) 2×13.000m
線	形：平面 直線、クロソイド 横断 2% (両勾配) ~2.6% (片勾配) 縦断 3.3%~3.23%

鋼 重：主構トラス 10 164t(省含む)
遊歩道 307t

3. 架設工法

架設地点は海上部(P₄~P₂₃) 1径間、市道横断部を含む地上部2径間となっている。

架設工法は、クローラークレーンによるベント工法およびトラベラークレーンによるカンチレバー工法であり、650tクローラークレーンにてP₂₃斜ベント上に5パネルを組み立て、それを架設基点とした。その後、2台のトラベラークレーンによりバランシング架設を行う。P₂₅側においては直ベントを使用した張り出し架設、P₄側においては斜ベントによる張り出し架設を行う。架設は上路鋼床版箱桁が断面方向に7分割で、鋼床版のシーム方向継手が現場溶接となっており、すべて単部材架設である。

4. あとがき

本橋の架設工事は1989年3月完成予定であるが、ベイブリッジのスカイウォークラウンジの遊歩道が当工区にもあり、工期が延長される予定である。なお架設工事詳細は別の機会に報告したい。



写真-1 架設状況

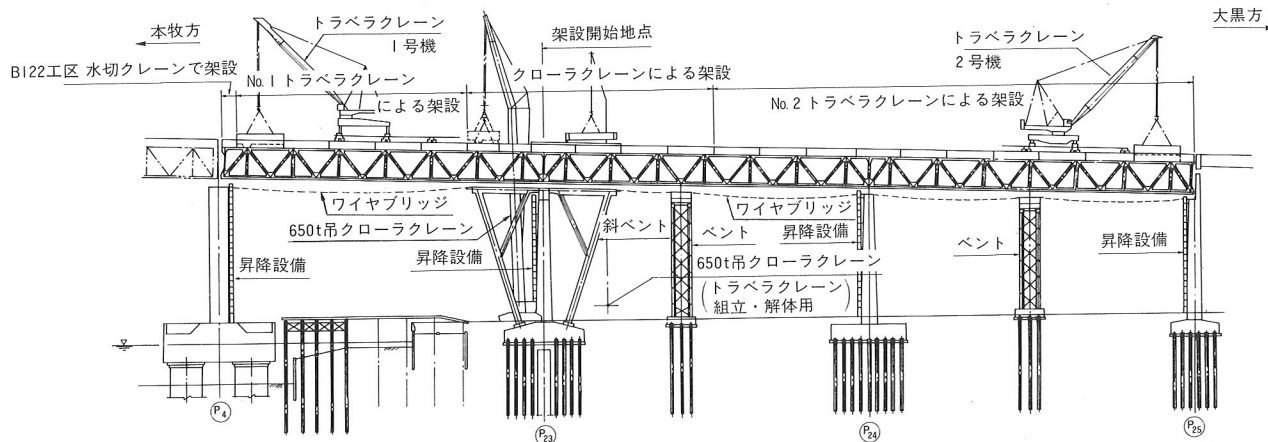


図-1 架設一般図

(文責・宗村基弘)